

民青同盟を一緒にやりませんか。2022年秋冬加盟呼びかけ文

■私たち民青同盟は、15歳から30歳が所属する全国約1万人の青年団体です。創立は1923年。地域・職場・学園ごとに班をつくり、身近なことから世界のことまで、一人ひとりの思いから出発し、学んだり交流したり行動したりしています。アドバイザーは、野党共闘を推進している日本共産党（国会議員21人、地方議員約2500人、党員約26万人、後援会員・サポーター約330万人、1922年創立）です。

■民青同盟は、青年の苦しさに寄り添い、なんとかするために力を尽くしてきました。コロナ禍での学生への食料支援活動、ネットカフェ利用者調査、そこで集めた声を行政や議員に届ける要請行動、被災地ボランティア、無料塾など、私たちにできることはたくさんあります。地域・職場・学園など、草の根で青年の苦しさに寄り添い、全国で心ひとつに、長年にわたって青年のために行動してきたことは、私たちの誇りです。

■民青同盟では、青年の苦しさのおおもとにある政治について学ぶことを大切にしてきました。競争社会と自己責任論のなかで、青年は様々な苦しさを「努力が足りないから」と思いがちです。しかし、高い学費や低賃金、不安定雇用や長時間過密労働、ジェンダー差別や環境問題など、大きな原因が政治にあることは少なくありません。政治を変えることが出来れば、青年の暮らしは絶対によくなります。

■民青同盟では、政治を変えられる展望を掴むことができます。日本社会の行き詰まりは、「財界中心」と「アメリカいなり」という「二つの歪み」を特質とする自民党政治にあります。市民と野党の共闘によって「二つの歪み」から抜け出す政権を樹立することで、日本の政治は大きく変えることができます。三回の参院選と二回の衆院選を通じて、市民と野党の共闘は、成立した選挙区の多くで自民党候補相手に勝利を収めてきました。自民党に投票するのは有権者のうち18.9%（2021年衆院選比例票）に過ぎません。この道を歩き通せば、青年の方を向いた政治が実現されます。

■民青同盟が、行動したり学んだりするうえで確かな力になっているのは、マルクスらが創設した科学的社会主義と、その理論で日本社会を分析した日本共産党綱領です。自民党政治や資本主義社会について、構造からつかむことのできるこれらの理論・文献によって、様々な問題や事件に対して、表面的ではない見方ができるようになります。科学的社会主義の最新の入門書『科学的社会主義 Q&A』を発行しているのも民青同盟です。

■いま、民青同盟は、草の根から憲法を守り生かす「全国青年憲法運動」を軸として、各地で青年と結びつき、願いを語り合い、政治と繋げ、解決のために学び行動しています。世界では、格差と貧困を正す運動が大きく広がり、ロシアのウクライナ侵略を止め世界の平和的秩序を構築しようとする動きが強まっています。ジェンダーや環境問題に関する行動も広がっています。民青の活動は、草の根から、そういった世界の大きな流れにつながる大切な活動です。

■活動の基本は週に一回の班会です。同盟費は550円（減免制度あり）、新聞も発行しています。予備知識はいりません。ゼロから社会や政治について学べます。学ぶことが一致点です。「社会や政治について学びたい」「社会や政治をよくしたい」「困っている人のためになにかしたい」「憲法を変えてしまっているのか不安」「真剣に社会のことを話せる仲間が欲しい」――激動の時代を生きるあなたへ、民青への加盟を心から呼びかけます。